

開講期	2026年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1024 子ども理解と学校づくり			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	金曜1限				
教室	D202教室				
代表教員	富樫 千紘				
担当教員	富樫 千紘				
テーマと到達目標	本講義のテーマは、戦後日本における学校づくり実践の理論と実践を学び、その意義と内容を理解することである。 具体的な到達目標は、①戦後日本における学校づくり実践を貫く理論を学ぶ、②学校づくり実践の事例に触れて理論の実際を学ぶ、③今日の学校づくりを取り巻く教育政策を知り分析視点を持つ、の3つである。				
概要	講義は3つの内容に分けて行う。 (1) 学校づくり理論編：「学校づくり」の目的と意味内容について学ぶ。 (2) 学校づくり実践編：戦後日本における学校づくり実践について学び、実践のポイントを理解する。 (3) 学校づくりを取り巻く課題編：近年の学校づくりを取り巻く状況について知り、現代において「学校づくり」を考える視点について学ぶ。 また、受講者の関心に応じて「大学生活を自分たちでつくる」活動の検討と実践を行い、学校づくり実践における「当事者性」について学ぶ機会を設けることを予定している。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション：「学校づくり」ってなんだろう？				対面授業
第2回	理論編①学校づくりの目的「人格の完成」「人間的自立」				対面授業
第3回	理論編②学校づくりの目的：「発達」				対面授業
第4回	理論編③「学びの当事者」としての子ども理解・子ども把握				対面授業
第5回	理論編④学校づくりの「当事者」としての教職員の位置づけ				対面授業
第6回	理論編⑤学校づくりの「当事者」としての保護者・地域住民の位置づけ				対面授業
第7回	講義中間まとめの回：理論編のまとめ				対面授業
第8回	実践編①戦後日本の学校づくり実践1				対面授業
第9回	実践編②戦後の学校づくり実践2				対面授業
第10回	実践編③戦後日本の学校づくり実践3				対面授業
第11回	課題編①子どもの権利保障と学校づくりの課題				対面授業
第12回	課題編②教職員の労働環境と学校づくりの課題				対面授業
第13回	課題編③少子高齢化社会における学校づくりの課題				対面授業
第14回	課題編④Society5.0における学校づくりの課題				対面授業
第15回	講義のまとめ：「学校づくり」を考える視点				対面授業
成績評価の基準	毎回の講義内の課題(30%)、小レポート課題(20%)、最終レポート(50%)により総合的に評価する。 2/3以上の出席が必要となる。				
履修にあたっての留意事項	毎回の講義後にポータルからの課題提出を求めため、タブレット・PCなどを持参することを推奨する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業					

の優先条件	
-------	--

## ◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	特に用いない。	教科書(ISBN)	
参考文献	石井拓児『学校づくりの概念・思想・戦略－教育における直接責任性原理の探求』(春風社、2022年) 植田一夫他『学校ってボクらの力で変わるねー子どもの権利が生きる学校づくりー』(高文研、2021年) 児美川孝一郎他『Society5.0と揺らぐ公教育－現代日本の教育政策／統治』(晃洋書房、2024年) 高橋哲編著『教員の「働き方改革」はなぜ進まないのか 教育・教員の特殊性をふまえた改革提言』(日本評論社、2025年)	参考文献(ISBN)	

## ◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください <a href="https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html">https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html</a> 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--